2015 年度

安全報告書



IGRいわて銀河鉄道株式会社

経営理念

人を 地域を 未来へつなぐ、 かけがえのない鉄道をめざします

経営目標

- ○「安全·安心」を第一に、 地域の旅客輸送·日本の物流の担い手として、 より信頼される鉄道であり続けます
- ○誰もが利用したくなるような、お客さまにやさしい、 魅力的な鉄道をめざします
- ○地域のかけがえのない足として、 将来にわたり健全で安定的な経営に努めます

皆様方には、日頃からIGRいわて銀河鉄道をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。

鉄道事業法第19条の4の規定に基づき、2015年度の「安全報告書」を取りまとめましたので公表にあたり、ごあいさつを申し上げます。

当社は、2002年の開業以来幾多の苦難を乗り越えながら、多くの方々のご支援・ご協力のもと、一貫して「安全」を最優先課題として取り組みを進め、昨年11月、中期経営計画の中でも大きな事業である青山駅に青山南口を併設した本社移転が無事にしゅん功し、オープンすることができました。これも、ご利用いただいている沿線地域の皆さまの支えがあってのことと、改めて感謝申し上げます。

鉄道事業者にとって「安全の確保」は、最重要の課題であり根源的な課題でもあります。 役員、社員ともに一丸となって、定められたルールをしっかり守り、更なる社員の安全資 質向上に向けた教育態勢の充実や鉄道設備等の信頼性を確保して、より安全・快適な鉄道輸 送を目指してまいります。

これまでの皆様方のご協力に感謝を申し上げますとともに、今後の一層のご支援をお願い申し上げます。

より質の高い安全輸送の実現につなげていくため、皆様からの声を輸送の安全に役立てて まいります。ご意見やご感想をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。



2016 年 6 月 I G R いわて銀河鉄道株式会社 代表取締役社長 菊池 正佳

「2015年度 安全報告書」

I. 安全に関する方針	
- 1. 安全綱領・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 輸送の安全確保に関する基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・	1
3.安全確保のための重点目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
4.重点目標に対する実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
Ⅱ.安全管理体制	
1. 安全管理体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2~3
2. 安全管理体制の強化	
(1)現場長連絡会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
(2)安全推進委員会・安全衛生委員会・・・・・・・・・・・・・	3
Ⅲ.鉄道運転事故等の発生状況	
1. 鉄道運転事故····································	4
2. インシデント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
3.輸送障害・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
4. 最近の輸送障害件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
5.2015 年度の輸送障害概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
6. 行政指導等····································	6
₩ 安全のための投資	
1. 安全投資額・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
2. 駅ホームの改修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
3. 橋りょうの護岸ブロック設置・・・・・・・・・・・・・・	7
V. 輸送の安全確保のための取組み(安全文化の構築)	
1. 事故防止の取組み	
(1)アクションプランの作成と推進・・・・・・・・・・・・・	8
(2)運輸安全マネジメントの推進(運輸安全内部監査の実施等)・・・	9
(3)安全総点検の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
(4)安全パトロールの実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
(5)巡回·点検···································	10
(6)ヒヤリ・ハット情報の収集と活用・・・・・・・・・・・・	10
(7)踏切脱出体験訓練会の実施・・・・・・・・・・・・・・・	11
(8)踏切事故防止DVDの制作・・・・・・・・・・・・・・	12
(9)踏切事故防止キャンペーンの実施・・・・・・・・・・・・	12
(10)鉄道安全教室の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
2. 意見交換会	
(1)職場間の意見交換会①・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
(2)職場間の意見交換会②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
3. 安全標語の募集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
4. 社員の訓練等	
(1)実車運転訓練会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15~16
(2)非常参集訓練・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
(3)緊急地震速報訓練・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
(4)定例訓練と勉強会(運輸管理所)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
(5)安全勉強会と技術勉強会(設備管理所)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
	. ,
(6)他企業の安全体感教育研修への参加・・・・・・・・・・・・	18

「2015年度 安全報告書」

	(7)協力会社と連携した訓練・・・・・・・・・・・・・・・・	18
	(8)他社訓練会への参加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18
	(9)他社施設を活用した訓練・・・・・・・・・・・・・・・・	18
	(10) 普通救命講習会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
	(11)乗務員の養成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
	(12)設備関係社員の養成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
	5. 安全への取組み	
	(1)鉄道テロへの対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20
	(2)輸送への影響の最小化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20
	(3)アルコール検知器の使用・・・・・・・・・・・・・・・・	20
	(4)防災業務実施計画の制定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20
	6. お客さまへのお願い	
	(1)踏切・線路内立ち入り等の事故防止・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
	(2)踏切通行に係る主な注意事項・・・・・・・・・・・・・・・	21
	(3)踏切でのトラブル対処法・・・・・・・・・・・・・・・・	— ·
7	71. お客さまとの連携	
	1. こども110番の駅・・・・・・・・・・・・・・・・・	24
	2. 列車妨害防止・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	24
	3. ビニール等の架線への飛来防止・・・・・・・・・・・・・・	24
	4. 迷惑行為の防止・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	24
	5. 沿線にお住まいの皆さまへ・・・・・・・・・・・・・・・	24
V	四. その他	
	1. 表彰受賞	
	(1)人命救助に感謝状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25
	(2)事業功労者、永年勤続優良従事者表彰・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	2. 青山南口開業と本社移転	20
	(1)本社移転・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25
	(2) I G Rイメージキャラクター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25
	3. 安全報告書の公表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25
V	□. 安全報告書へのご意見	
•	1. 安全報告書へのご意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	26

IGRいわて銀河鉄道株式会社

IGRいわて銀河鉄道は、平成 14 年 12 月 1 日、東北新幹線盛岡~八戸間の開業に伴い、JR東日本から経営分離された、並行在来線である東北本線の盛岡~目時(青森県との県境付近)間を引き継いで開業しました。

いわて銀河鉄道線が果たす役割

地域住民の通勤、通学、通院等における交通手段としての役割 北海道と首都圏を結ぶ鉄道貨物輸送の大動脈としての役割



Ⅰ.安全に関する方針

1. 安全要綱

- (1) 安全の確保は、輸送の生命である
- (2) 規程の遵守は、安全の基礎である
- (3) 執務の厳正は、安全の要件である

2. 輸送の安全確保に関する基本的な考え方

当社では、安全の確保に関する基本的な考え方を「安全に関する基本的な方針」として、「安全管理規程」で次のように定め、全社員に周知徹底し「事故ゼロ」を目指して取り組んでいます。

- (1) 一致協力して輸送の安全確保に努めます。
- (2) 輸送の安全確保に関する法令及び関連する規程をよく理解するとともにこれを厳守し、厳正、忠実に職務を遂行します。
- (3) 常に輸送の安全に関する状況の理解と確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取扱いをします。
- (4) 事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全 適切な処置をとります。
- (5) 情報は漏れなく敏速、正確に伝え、透明性を確保します。
- (6) 常に問題意識を持ち、必要な変革に継続的かつ果敢に挑戦します。

3. 安全確保のための重点目標

「重大事故・重大インシデント」の撲滅

※「重大事故・重大インシデント」とは、運輸安全委員会の調査対象となった事故などをいい、列車事故(衝突・脱線・火災)や乗客の死亡事故・鉄道運転事故が発生する恐れがあると認められる事態などをいいます。

4. 重点目標に対する実績

2015年度は、「重大事故・重大インシデント」は発生しておりません。

(単位:件)

年 度 項目	2011	2012	2013	2014	2015
列車事故(衝突・脱線・火災)	0	0	0	0	0
乗客の死亡事故など	0	0	0	0	0

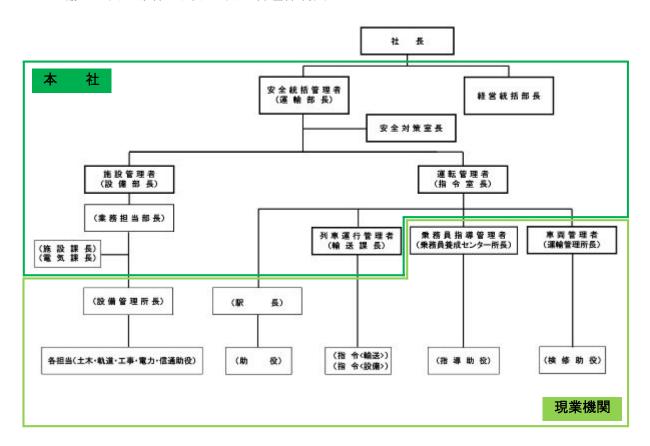
Ⅱ.安全管理体制

当社では、鉄道事業法の一部を改正する法律が 2006 年 10 月から施行されたことに伴い、安全管理体制を確立し、輸送の安全水準の維持および向上を図ることを目的として安全管理規程を制定しました。この規程には、輸送の安全を確保するための基本的な方針、鉄道事業における安全の確保に関する組織体制、責任者の役割と権限などを定めています。

1. 安全管理体制

社長を最高責任者とし、経営トップの安全確保に関する責務や、輸送の安全の確保に 関する業務全体を統括する安全統括管理者をはじめ、運転管理者、施設管理者、乗務員 指導管理者などの各責任者の責任体制を明確にして、安全管理体制を構築しています。

≪輸送の安全確保に関する安全管理体制図≫



(1) 安全管理体制の周知

本社での朝礼のほか、毎月発行される社内報「Monthlyぎんが」では、社長から全社員へ向けて「IGRは安全を第一として無事故を継続し、多くのお客さまが安全に、快適にご利用いただけるよう、社員一人ひとりが着実な業務を遂行するようお願いする」等の訓辞がなされ、安全に対する意識高揚及び安全管理体制構築の徹底を図っています。

Ⅱ.安全管理体制

1. 安全管理体制

≪安全管理者の役割≫

役 職	役割
社長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
運転管理者	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。
施設管理者	安全統括管理者の指揮の下、施設に関する事項を統括する。
車両管理者	運転管理者の下、車両に関する事項を管理する。
乗務員指導管理者	運転管理者の下、乗務員の資質保持に関する事項を管理する。
列車運行管理者	運転管理者の下、輸送計画の作成及び指令業務に関する事項を 管理する。
経営統括部長	安全に係る投資、予算及び要員計画等を管理する。
安全対策室長	安全統括管理者の指揮の下、安全の確保に関する事項を推進する。

2. 安全管理体制の強化

(1) 現場長連絡会議

毎月開催される「現場長連絡会議」では、社長、安全統括管理者から本社部課長及び全現場長に「IGRにとって安全の確保は最大の使命であり、役員・社員が一丸となって取り組むように」等の冒頭訓辞がなされ、安全に対する意識高揚及び安全管理体制の強化に向けて周知・徹底を図っています。

(2) 安全推進委員会·安全衛生委員会



社長、安全統括管理者および各安全管理者以下本社部課長並びに全現場長等が出席し、IGR安全推進委員会を2ヵ月に1回開催しています。

当社で発生した事故・輸送障害等の発生状況、 再発防止対策および「ヒヤリ・ハット」「気がか り事項」、各種運動結果、訓練実施結果などを審 議し、関係各部門間で情報の水平展開を図って、 安全管理体制の向上に努めています。

【安全推進委員会】

また、IGR安全衛生委員会は3ヵ月に1回開催し、労働安全・衛生に関する重要 事項、職場環境の改善等について審議して、社員の労働災害防止や健康管理に努めて います。

Ⅲ.鉄道運転事故等の発生状況

鉄道事故等報告規則(昭和62年2月20日運輸省令第8号)に基づき、国土交通省東 北運輸局に報告した鉄道事故等の発生状況を報告します。

当社では、事故等の報告と分類に関するルールを定めて正しく把握して、再発事故防止に努めています。

※「鉄道事故等報告規則」とは、鉄道事業法の規定による鉄道の事故、輸送障害、災害等について、国土交通大臣に届け出る場合の報告方を定めた規則をいいます。

1. 鉄道運転事故

2015年度に発生した鉄道運転事故は1件でした。

	項目	件	数	特記事項
1	鉄道人身障害事故	1	件	運休 〇本 遅延 5本

- ※鉄道事故等報告規則では、列車衝突事故、列車脱線事故、列車火災事故、踏切障害事故、道路障害事故、鉄道人身障害事故、鉄道物損事故を鉄道運転事故といいます。
- ※「鉄道人身障害事故」とは、列車又は車両の運転により人の死傷を生じた事故をいいます。

2. インシデント

2015年度に発生したインシデントはありませんでした。

※「インシデント」とは、鉄道運転事故が発生するおそれがあると認められる事態をいいます。

3. 輸送障害

2015年度に発生した輸送障害は7件でした。

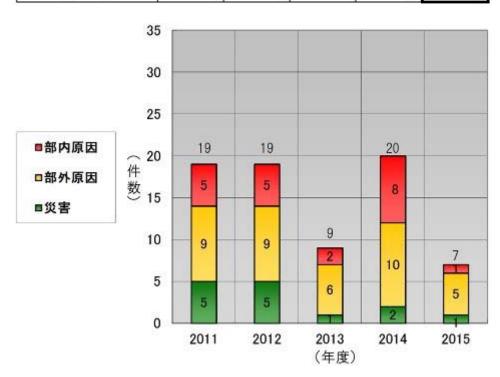
※「輸送障害」とは、鉄道における輸送に障害を生じた事態であって、鉄道運転事故以外のものをいい、旅客列車にあっては30分以上、旅客列車以外の列車については1時間以上の遅延を生じたものなどをいいます。

4. 最近の輸送障害件数

2011 年度からの5年間の輸送障害件数は、次のようになっております。 2015年度は7件発生しました。

					(当	位:件)
区分	原因年月	2011	2012	2013	2014	2015
	保守作業誤	9 1	1	0	0	(
	速度超	過 0	0	0	1	7
to the	乗 務 員 疾	病 0	0	0	0	
部内原因	線路故	障 0	0	0	0	
THE	車 両 故	障 4	4	2	5	3
	転てつ装置故	障 0	0	0	0	3
	その他故	障 0	0	0	2	3
	異 音 感	知 1	1	0	0	- 1
		障 2	2	2	2	- 3
		殺 0	0	0	0	9
		物 1	1	0	0	- 1
AD AN	妨	害 1	1	0	0	
部外原因		障 0	0	0	0	- 1
派凶	その他支	障 4	4	4	8	
	地質	麗 3	3	0	1	- 1
	災雨	2	2	1	1	0
	害風	0	0	0	0	
	雪	0	0	0	0	
	合 計	19	19	9	20	

年度別 輸送障害件数



- ■「部内原因」とは、当社の車両、設備の故障などが原因のものをいいます。
- □「部外原因」とは、線路内立ち入りや自殺など当社以外の原因によるものをいいます。

Ⅲ.鉄道運転事故等の発生状況

5. 2015 年度の輸送障害概況

輸送障害件数 7 件を分類すると、部内原因 1 件、部外原因 5 件、災害によるものが 1 件でした。

(1) 部内原因

部内原因1件は、列車運転席側前面窓ガラスの熱線不良による列車の装置故障が発生したもので、部内原因全体では前年度に比べ7件減少しました。

【列車の装置故障の概要】

列車運転席側前面窓ガラスが経年劣化により"熱線による防曇効果"が得られず 曇りが生じたことから、列車運転操縦等の安全確保のため列車に運休や遅延が発生 しました。

故障の原因、背後要因等をしっかり分析し、再発防止に向け対策の強化に努めて まいります。

(2) 部外原因

部外原因5件は、公衆等が線路内に無断で立ち入りしたことにより列車に運休や遅延が発生したもので、前年度に比べ2件増加しましたが、部外原因全体では5件減少しました。

(3) 災害

2011 年度からの5年間では、地震・雨・風・雪による輸送障害は減少傾向にありますが、今後も災害への安全対策を進めてまいります。

当社では列車の安全確保に今後も努力を継続してまいりますが、自然災害により列車運休等が発生した場合には、安全確認を行ったうえでの運転再開となります。 お客さまの一層のご理解とご協力をお願いいたします。

6. 行政指導等

2015年度の行政指導等はありませんでした。

1. 安全投資額

線路や車両等、鉄道設備の安全性の維持・確保のため、投資・修繕を計画的に実施しております。2015年度の安全のための支出は、IGR7000系電車機器更新等への投資額147,159千円を含めた設備投資額(建設費)202,427千円、修繕費額1,993,878千円となりました。2014年度から取り組んでいる"経年劣化による車両不具合等への対策"に係る車両電子機器更新は全編成完了しました。引き続き、お客さまに安心してご利用いただけるよう取り組んでまいります。2011年度以降5年間の状況は以下のとおりです。

(単位:千円)

項	年	度	2011	2012	2013	2014	2015
建	設	費	24, 185	82, 621	154, 868	93, 031	202, 427
修	繕	費	1, 507, 820	1, 612, 059	1, 702, 101	1, 998, 254	1, 993, 878
合		丰	1, 532, 005	1, 694, 680	1, 856, 969	2, 091, 285	2, 196, 305

- ※「建設費」とは、鉄道事業固定資産の建設に要した費用をいいます。
- ※「修繕費」とは、鉄道事業固定資産の機能維持、現状の回復等に必要な費用をいいます。

2. 駅ホームの改修

滝沢駅の2・3番線ホームが凍害等による劣化が進行していたため、ホームをご利用されるお客さまの安全確保を目的として、乗降部分には滑り止めを設置するなどの修繕工事を実施しました。

2015 年度はお客さまの乗降が多い部分を先行し、残る両端部を2016 年度に行う予定です。



【滝沢駅滑り止め設置】



金田一温泉駅の2・3番線ホームの列車との段差解消のためにホームの嵩上げを行いました。また、ホーム上の待合室については建物と3番線の間の歩行部分が非常に狭く危険であったためお客さまの安全を考慮し撤去を行いました。

【金田一温泉駅ホーム嵩上げ】

3. 橋りょうへの護床ブロック設置

いわて銀河鉄道線一戸~二戸駅間の第9馬渕川橋りょうは、経年と川の洗掘によって全体的に河床低下が進行している状況にあったため、河床低下の抑制と橋脚基礎部の防護を目的として護床ブロックおよび護床ネットの敷設を行いました。同様の工事は、2016年度も同駅間の上流側にあたる第10馬渕川橋りょうでも行う予定です。

【渇水期での護岸ブロック設置】

V.輸送の安全確保のための取組み(安全文化の構築)

1. 事故防止の取組み

(1) アクションプランの作成と推進

IGRいわて銀河鉄道は、2015年11月、青山南口を新設すると共に、本社を移転し、沿線の魅力発信と地域活性化、および輸送障害発生時の迅速対応の拠点として、新たな体制を整えました。引き続き、安全面・サービス面・経営面の様々な問題に向き合っていきます。

新・経営ビジョン(2013~2022年)、中期経営計画(2013~2017年)の考え方に沿った今年度の具体的な事業計画が、「アクションプラン2015」です。系統別にプランがあり、"人を 地域を 未来へつなぐ かけがえのない鉄道"になるため、社員が日々の業務で取り組む内容を記載しています。

"もっと身近に I G R"を合言葉に、新・経営ビジョンや中期経営計画の達成に向けた 単年度の行動を「見える化」するツールとして、四半期ごとに進捗状況を確認し、計画 を見直し軌道修正していくことにより、取り組みを確実なものにしていきます。





当社では、安全管理規程第2条第3項に、 安全に関する基本的な方針として「策定した 施設、車両等にかかわる安全性の維持、向上 のための施策はアクションプラン等による」 ことを定めています。

【アクションプラン2015】

安全性の確保を最優先に、安定的な運行によりお客さまに安心してご利用いただくために、社員一人ひとりが自覚して業務に取り組みます。

経営方針と重点事項

「安全・安心」を第一に、地域の旅客輸送・日本の物流の担い手としてより信頼される鉄道であり続けます。

基軸である鉄道業の信頼性を向上

- ★社員一人ひとりが安全を最優先に業務に取り組む
- ★鉄道施設の信頼性を確保する

- ■無事故の継続
- ■「運輸安全マネジメント」推進のための体制強化

重点基項

- ■「運輸安全マネジメント」に基づいた技術や知識の向上
- ■設備の維持、更新の推進
- ■その他必要な取組み事項

「アクションプラン」は、経営ビジョンにもとづく単年度事業計画(行動計画)をいい、当初の名称は異なっておりましたが、2004年度から策定を開始して現在に至っております。

2015年度アクションプラン「安全」への取組みでは、経営目標「安全・安心を第一に、地域の旅客輸送・日本物流の担い手としてより信頼される鉄道であり続けます。」を達成するため、重点事項4、具体的取組大項目8、具体的取組細目25を四半期ごとにトレースをし、進捗状況を確認しながら進めました。各項目において当初の目的を達成することができました。

1. 事故防止の取組み

(2) 運輸安全マネジメントの推進(運輸安全内部監査の実施等)

当社では、監査員による内部監査を2010年度から実施しています。監査員は、部内・部外研修を行って育成を図り、現在は若手社員を主体に構成しています。

2015年度は、本社設備部へは2016年2月に、それぞれ有効性と適合性について監査を実施しました。重大及び軽微な「不適合」な事象はなく、また、今後不適合事項となる可能性を有している「観察事項」、「改善推奨事項」もありませんでした。

輸送の安全に関する適切な安全管理体制のための「PDCAサイクル(計画の策定、実行、チェック、改善))等、確認した監査項目すべて良好な結果でありました。

引き続き、内部監査の意義を社員間に理解・浸透させるべく厳正な内部監査に努めてまいります。

- ※「有効性の確認」とは、安全管理体制が適正に運営され、有効に機能しているかの確認をいいます。
- ※「適合性の確認」とは、安全管理体制に関する規程・手順に適正に適合しているかの 確認をいいます。

(3) 安全総点検の実施

春・夏・年末年始の各多客輸送期間は、指令事務室内に社長を本部長とした輸送対策本部を設置し、社長・安全統括管理者・施設管理者による職場安全巡視、本社各部課長による現業機関業務状況確認等の総点検を実施しました。

安全確保・事故防止の徹底を図るとともに、社員の一層の安全意識の高揚を図るため、社長を総点検の最高責任者として、各駅所への安全総点検を以下の期間において実施しました。

≪平成27年度安全総点検実施期間≫

- ① GW期間中における輸送の安全確保について 4月25日~5月7日
- ② 夏季における輸送の安全確保について 7月25日~8月23日
- ③ 年末年始の輸送等に関する安全確保と安全総点 検の実施について

12月10日~2015年1月10日





【社長·安全統括管理者列車前頭巡視】



【現場長からの業務報告】





【安全巡視での社長訓示】



V.輸送の安全確保のための取組み(安全文化の構築)

1. 事故防止の取組み

(4) 安全パトロールの実施

輸送の安全を確保するため「経年による老朽設備」等を計画的にメンテナンスしています。計画にあたっては、事前に施工会社から工事計画書の提出を受け、検討会を開催して保安体制や工事における施工方法等の安全を確認しますが、施工当日は必要により当社社員による安全パトロールを行い、保安体制、危険作業の有無等をチェックし、不備な場合はその場で指導を行っています。

(5) 巡回・点検

線路及び線路に付帯する設備は、徒歩による巡視と列車を利用した列車巡回を定期的に行っています。列車巡回は体感による列車動揺の把握、沿線の環境変化等による危険箇所の把握を行うもので、そのほか、電気・軌道総合検測車で年4回、線路状態・架線状態等のデータを収集して、厳正な保守管理に努めています。

(6) ヒヤリ・ハット情報の収集と活用

鉄道運転事故や輸送障害等を未然に防止するためには「ヒヤリ・ハット」・「気がかり事項」を掘り起こして活用していくことが重要です。当社では、全社員及び委託社員を対象として効果的な掘り起しと活用に向け2011年3月に、「ヒヤリ・ハット」・「気がかり事項」報告手順書を作成して、重要な案件については「安全推進委員会」で審議するなどの取り組みを行っています。2015年度は、69件が提出され改善を図りました。

- ※「ヒヤリ・ハット」とは、事故が起こるかもしれないと思ってヒヤッとした、ハッとした出来事をいいます。
- ※「気がかり事項」とは、危険性を感じ、事故につながるのではないかと気がかりに 思う事象をいいます

【2015年度の主な取り組み事例】

気がかり事項 事故防止対策 掲示による注意喚起 乗務員等からの報告 冬期においては、滝沢駅ホームに融雪剤を散 駅員からの口頭注意 頭上注意 布しても夜間は凍結しまうため、お客さまが転 のほか、注意喚起の掲 倒しケガをする恐れがあり危険である。 示を行い、お客さまへ 駅舎屋根からの落雪によりお客さまがケガを 注意を促しました。 凍結の恐れあり する恐れもある。 乗務員等からの報告 乗降指導等による対応 列車接近時、駅の列車到着を待つお客さまの お客さまに危険な状況が発生しないよう、通勤・ 立っている位置が近くて怖いと感じる。 通学利用の多い列車を対象として乗降時に注意喚起 を図りました。 現地で対応のほか、通学利用者が多い近傍の学校 列車起動直前にかけ込みのお客さまを発見 し、急ブレーキ操作をしたことがある。 に対して『ホームでの歩行の際は、基本的に「黄色 い線の内側」を歩行するよう高校側で指導してくだ さい。』と協力要請を行いました。 併せて、進入学時期等は継続的に乗降指導を行い 事故の芽の摘み取りに取り組んでおります。

Ⅴ.輸送の安全確保のための取組み(安全文化の構築)

1. 事故防止の取組み

(7) 踏切脱出体験訓練会の実施

いわて銀河鉄道線の踏切事故は、2013年度以降では「人身事故が3件」、「自動車との衝突が1件」発生しています。踏切事故の多くは、踏切利用者や列車乗客の人命が失われる悲惨な状況となります。このことから、IGRいわて銀河鉄道では、7月28日、二戸市をはじめ、二戸警察署、沿線地域住民の皆様のご指導とご協力をいただき、16関係機関から総勢120名が参加し、金田一温泉駅近傍の下金田一踏切を使用した「踏切脱出体験訓練会」を開催しました。





【自動車用発炎筒の体験】

【踏切脱出体験】





【踏切非常ボタン押下体験】【自動車用発炎筒による列車防護体験】

【参加者体験型訓練を実施】

- ① 踏切内での体験訓練
 - · 自動車踏切脱出体験
 - ・非常ボタン操作体験
- ②踏切外での体験訓練
 - ・自動車用発炎筒の取扱い体験

遮断かんを押し上げて脱出する方法と発炎筒の使い方は、多くの参加者が初めて見て知る体験だったようです。

「自動車で踏切を横断中に遮断棹かんが降りてしまい自動車が踏切内に閉じ込められた」という想定での、あってはならない緊急時への体験型訓練です。

「自動車で踏切を横断中に遮断かんが降りてしまい自動車が踏切内に閉じ込められた」場合は、

- あわてずに踏切両側にある<u>非常ボタン**1</u>を押し、線路外の安全な場所に避難する。 (※1) いわて銀河鉄道線管内は全踏切に非常ボタンが設置されております。
- 自動車に搭載されてある発炎筒^{※2}を点火し合図する。 (※2)自動車用発炎筒は自身の安全が確保できる場合の使用をお願いします。 などの方法で、列車の運転士に危険を知らせることができますが、
- ○自動車を(ゆっくり)前進(後進)させ、自動車で遮断かんを押しながら自動車を脱出 させる。

遮断かんは上に押し上げられるので、自動車を脱出させることができます。

無理な進入は絶対にやめ、交通ルールをしっかり守って、踏切事故を未然に防止しましょう!!

トリコ^{注1}になった自動車がトラブル回避した事象(紹介)

平成 27 年 9 月 30 日、いわて銀河鉄道線一戸駅構内新天王踏切にて、貨物列車がトリコ^{注 1}になった自動車を発見して非常停止、防護無線を発報した事象が発生いたしました。

その後、当該自動車の同乗者から指令のフリーダイヤルに「踏切からの脱出方法を知っていた おかげで事故に至らなかった^{注2}」と、連絡がありました。

本事象は、自動車の無理な進入により発生した事象でありましたが、「踏切でのトラブル対応が 浸透していたために重大事故に至らなかった」と考えると、当社の取組みの効果はいずれ大きな 実を結ぶものであると強く感じた事象でありました。

- (注1)踏切への無理な進入により、自動車等が踏切内に取り残される状態を指します。
- (注2)踏切事故防止運動でのチラシ配布等による啓発効果によるものと推定





1. 事故防止の取組み

(8) 踏切事故防止DVDの制作

平成27年2月12日、盛岡駅・青山駅間境田川原踏切にて タクシーと列車が衝撃するという重大事故が発生いたしま した。幸いにもタクシー乗車のお客さまは軽傷ですみまし たが、一つ間違えると死亡事故、脱線事故にも繋がりかね ない事故でした。

このことから、当社では踏切でのトラブル対処方法等を DVD化し、12月21日に岩手県警察本部への贈呈のほか、 岩手県交通安全協会、自動車関係協会及びその加盟事業者 等へ無償で配布し、多くの皆様に御協力をいただき"踏切 でのトラブル対応"の認知度向上に取り組んでおります。



【踏切事故防止DVD】

タイトル



閉じ込められた場合・・・



【映像構成】「5分でわかる 踏切でのトラブル対応」

- ○踏切内で車輌が"閉じ込められた場合^注"のトラブル回避方法
- ○踏切内で車輌が"動かなくなった場合注"のトラブル回避方法
 - (注) いずれの場合も車輌の"無理な進入によるトラブル"を想定した映像となります。

(9) 踏切事故防止キャンペーンの実施

5月14日、9月24日に全国交通安全運動期間に合せた「踏切事故防止キャンペーン」を全社各職場一斉に実施しました。

当社管内で特に交通量が多い8踏切を指定し、社長、安全統括管理者及び施設管理

者をはじめとして、全社各職場一斉に自動車のドライバロ財団を対象に、踏切内に閉じ込められた場合の対処方法、踏切での通行マナーなどが記載されたリース、踏いよりを配布するとともに、いいまりました。



【社長等による踏切通行者への呼びかけ】



社長、安全統括管理者及び施設管理者は、対象踏切での踏切事故防止キャンペーン終了後、踏切事故防止啓発活動として、岩手県警察本部、警察署、自動車関係協会、自動車学校等へ伺い踏切事故防止のための協力要請を行いました。

【警察署への踏切事故防止の協力要請】

1. 事故防止の取組み

(10) 鉄道安全教室の開催

踏切に対する正しい知 識を身に着けてもらうために、4月24日に盛年生の 立北厨川小学校2年に盛 見童54名、6月4日に盛 同市立青山小学校1年年 の児童94名、計148名の児 童を対象として、鉄道 教室を開催しました。



【北厨川小学校】

【青山小学校】

児童の安全の向上を図るため、踏切模擬装置を使用するなどして、踏切の仕組みや 踏切を通行する場合に守って欲しいことなどのほか、ホームでの電車の待ち方や電車 内でのマナーなどについての指導を行いました。



【青山小学校1年生からの御礼】

2. 意見交換会

(1) 職場間の意見交換会①

7月24日、運輸管理所と盛岡駅 G が合同勉強会と意見交換会を開催しました。 よりお客さまに即したサービスを提供するための知識を深めることを目的として、 バリアフリー体験をとおして、お客さまが安心して列車内や駅を利用していただくた めの注意点を確認しました。

意見交換会では「ハード面で対応しきれていない部分を、乗務員と駅員間で協力し合いより良いサービスを目指していきたい」などの思いが参加者全体で共有されました。

また、バリアフリー^注体験ではお客さまが望む本当に必要な情報はなにかを見出す "キッカケづくり"につながり、お客さまをサポートするポイントやタイミングなど、そのお客さまに合った介助について再確認しました。

(注) ここでいう「バリアフリー」とは、旅客施設・車両等に対して物理的な障害や、 精神的な障壁を取り除いた状態をいいます。

2. 意見交換会

(1) 職場間の意見交換会②

9月18日、ぎんが指令と運輸管理所が意見交換会を開催しました。

普段からつながりが多い"指令員"と"乗務員"が、安全・安心の提供についてお客さまの視点に立ったサービスを創り上げるには「チームワーク」が欠かせないとして、お互いの業務等に対して疑問に思っていることや、気づき等の意見を出し合い、更なる職場活性化を進めています。



【職場間の業務意見交換会】

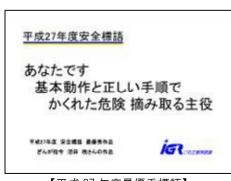
また、意見交換会後は乗務員が指令業務をとおして運行管理等の機器や仕組みについて学ぶなど、互いの業務について再確認しました。

3. 安全標語の募集

安全標語は、委託社員を含む全社員を対象として毎年度募集しています。

「平成 27 年度安全標語」は、応募総数 225 点の中から右に掲載した標語 1 点が最優秀賞に選出されました。

最優秀賞標語は全職場に掲出し、また、最優秀賞と優秀賞30点は「日めくりカレンダー」として各職場に掲示され、安全意識の高揚に役立っています。



【平成27年度最優秀標語】



【平成27年度最優秀賞表彰】

安全標語のほか、当社では委託社員を含む全社員を対象として、「お客さまに係る接客・接遇の心構え」に関するサービス標語を毎年度募集しています。

「平成 27 年度サービス標語」は、応募総数 226 点の中から選出した最優秀賞標語 1 点を全職場に掲出し、優秀賞標語 30 点を「日めくりカレンダー」として各職場に 掲示しました。

平成27年度サービス標語

約束します信頼を お届けします まごころを レールでつなぐ地域の未来

平成27年度 サービス標語 最優秀作品 盛岡駅 G 土岐 美津子さんの作品

4. 社員の訓練等

(1) 実車運転訓練会

当社では開業以来毎年度、異常時への適切な対処と技術力の向上を目的に、訓練列車を運転して「実車運転訓練会」を開催しています。

2015年度は9月17日に社員・協力会社78名、東北運輸局及び東北鉄道協会「技術力共有化事業」として東北鉄道協会に加盟する鉄道会社7社から15名、盛岡東警察署、盛岡中央消防署玉山出張所等から計12名、総勢105名が参加して開催しました。

警察署・消防署とは、合同で「踏切人身事故への対応訓練」を行って連携強化を図りました。

主な訓練の様子を紹介します。

① 駆け込み乗車の取扱訓練

駅ホームにおいて、列車車掌が発車後の状態注視中に駆け込み乗車のお客さまを認め、危ないと判断し車掌用の非常スイッチを扱って列車を停止させる訓練を実施しました。

※「駆け込み乗車」とは、出発のため扉を閉めようとしている列車に急いで乗ろうとする危険な行為をいいます。なかには、閉まりかけた扉に体の一部や所持品を挟めてしまうケースも想定されるため、動き出した列車であっても非常停止して安全の確認を行います。



【駆け込み乗車対応訓練】

② 列車抑止訓練(現地訓練)

道床陥没を発見した設備係員が可搬式特殊信号 発光機で列車防護を行い、陥没箇所の穴埋めと軌 道整備等の応急復旧を行って、手信号で列車を安 全に通過させるまでの訓練を実施しました。



【設備係員による手信号取扱い訓練】

③ トンネル内での非常訓練

列車がトンネル手前付近を走行中に1両目座席付近から発煙していたため、 車掌がお客さまを2両目に避難誘導させて安全の確保をするとともに、運転士 がトンネル内を避けて緊急停止し、搭載している消火器を使用して消火作業す る訓練を実施しました。



【車掌による避難誘導訓練】



【消火器を使用した消火訓練】

避難誘導訓練では、 東北鉄道協会「技術力 共有化事業」加盟鉄道 会社からの参加者が、 お客さま役として訓練 に参加をしました。



4. 社員の訓練等

④ 踏切人身事故への対応訓練

踏切での事故は、公衆・自動車・軽 車両等の直前横断、停滞及び脱輪、 エンストなどの部外原因により発生 した"列車との衝突事故"が大半を 占めており、鉄道事故での死傷者の 大半を占める事故でもあります。

最近の踏切障害事故件数

25 年度2件

公衆が鳴動中の踏切内に立入り列車と衝撃

26 年度 ………1件

タクシーがトリコとなり列車と衝撃

27 年度 発生なし

列車運転士は、衝突を避けるため非常ブレーキ等で緊急停止しますが、直前 横断等による発生事象が大半であるため、列車に乗車されているお客さまにケ ガ人や、道路交通側の自動車等に死傷者が発生するなど、その多くが最悪な状 況になってしまう場合も少なくありません。



そのため、当社では列車に乗車されているお客さま、自動車等の死傷者に対しての救護・救済を 最優先に、二次災害の防止と早期復旧に向けた体 制強化を図るため、警察及び消防署員等関係者と の連携のための合同訓練を実施しました。

【IGR社員と警察との連携】

≪訓練の想定≫

走行中の列車運転士は、踏切道で遮断かんをく ぐり進入した自動車を発見、非常ブレーキ手配を 執ったが間に合わず、自動車と衝突した。

自動車は大破し運転手は意識不明、列車内乗車 のお客さま一人が転倒して右腕を骨折した。列車 は自力走行不能となったため、負傷したお客さま 以外をタクシー代行により救済した。



【運転士による負傷者の確認】

≪訓練の目的≫

併発事故の防止と迅速な負傷者救護・運転再開

- ▶ 事故処理に伴う関係者(| G R 社員、警察、 消防署員等)間の連携
- ▶ 事故負傷者の救護・救済
- ▶ 代行輸送に向けたお客さまの車外への誘導
- ▶ 現地責任者(| G R 社員)の対応方



【IGR社員と消防との連携】



【お客さまの車外への誘導】





【消防による負傷者の救護】

V.輸送の安全確保のための取組み(安全文化の構築)

4. 社員の訓練等

(2) 非常参集訓練

9月1日に「防災の 日」の取り組みとして、 「震度6弱の地震が発生」という設定のもと、 社員が自律的に非常参集 する訓練を実施しました。





【社長を本部長とした本社対策本部の設置】

昨今は、他鉄道事業者においても大規模地震や集中 豪雨などの想像をはるかに超えた自然災害が多く発生 していることから、訓練項目として情報伝達、屋内か らの避難誘導、災害伝言ダイヤル訓練等を実施して災 害対応力の強化を図りました。



【発電機(非常用予備電源)取扱い訓練】

(3) 緊急地震速報訓練

11月5日「津波防災の日」に防災意識の向上と、地震速報対応の深度化を図るため緊急地震速報訓練を実施しました。

屋内・屋外様々な状況での具体的な対応と行動力を養って、お客さまや家族等の安全を守ります。

(4) 定例訓練と勉強会(運輸管理所)

運輸管理所では、運転士は毎月、車掌は年10回、定例訓練を実施して知識・技能の維持向上に努めています。

そのほか、実際に起こり得る事 象や発生事例の少ない事象を集め テーマを決め、運転士・車掌・検





【知識・技能向上のための勉強会】

修担当社員が合同して知識と技能の向上を図る勉強会を年2回開催しました。

2015年度は、上期(8月28日)に電源誘導の取扱い、下期(2016年2月1日)に車両搭載品の各種取扱いをテーマとして、運転士・車掌が日頃扱う機器類・搭載品の扱い方を確認しました。

(5)安全勉強会と技術勉強会(設備管理所)

設備管理所(軌道・土木・電力・信号通信)では、定期的に行う「安全勉強会」のほか、若手社員が中心となり、5月21日に営業線での道床部分入替え作業による"線路の保守管理"勉強会、6月10日に好摩駅構内に設置した訓練線を活用した"レール破断時の仮復旧及び本復旧対応訓練"等の技術勉強会を開催しました。



【線路の保守管理のための勉強会】



Ⅴ.輸送の安全確保のための取組み(安全文化の構築)

4. 社員の訓練等

(6) 他企業の安全体感教育研修への参加

12月10日、日鉄住金ビジネスサービス鹿島(株)主催「安全体感教育(技能教育)」研修に現業機関社員を対象として参加しました。この研修は、「高所危険体感」「電気危険体感」等の危険体感をとおして、身の周りに潜んでいる"危険"に対する意識の低下を払しょくするための研修であり、社員一人ひとりの安全に対する意識の醸成につなげております。

(7) 協力会社と連携した訓練

9月29日、運輸管理所で協力会社と合同で脱線復旧訓練を実施しました。油圧ジャッキによる台上げ、横送り作業などを一つひとつ確認しながら行いました。



【脱線復旧訓練】

(8) 他社訓練会への参加

9月9日、東青森駅で日本貨物鉄道株式会社東北支社主催「平成27年度総合脱線復旧訓練」が開催され、当社からは社長、安全統括管理者他13名が参加して運転士の異常時取扱い訓練の見学、貨車の連結訓練及び後部標識取扱い訓練、携帯用信号炎管の取扱い訓練を行いました。



【電気機関車復旧訓練】



【貨車の解放・連結訓練】



【携帯用信号炎管の取扱訓練】

(9) 他社施設を活用した訓練

若手乗務員の教育・訓練を充実させるため、運転士は乗務開始後の3・6・12ヶ月目及び2年目に、車掌は6ヶ月目及び2年目にフォローアップ研修を実施しています。

フォローアップ研修では他社へ委託して運転台シミュレータを用いた研修も導入 し、普段経験できない異常時の取扱訓練等を行っています。

2015年度は、運転士・車掌13名に実施しました。

V.輸送の安全確保のための取組み(安全文化の構築)

4. 社員の訓練等

(10) 普通救命講習

当社では毎年度、「AED(自動体外式除細動器)普通救命講習会」を開催しています。

2015年度は3回開催し、計21名の社員が受講しました。 社員がお客さまの救命処置を的確に行うことができるよう、人口呼吸・心肺蘇生・AED操作方法などの実技訓練を行って緊急時に備えています。

なお、当社は普通救命講習の指導資格者がおり、新入社 員教育のカリキュラムなど独自で講習を行っています。



【新入社員教育での 普通救命講習】

(11) 乗務員の養成

運転士・車掌の養成は、自社の乗務員養成センターで行っています。

新規に運転士を養成する場合は、車掌を経験した社員に対して社内選考試験を行い、その中の合格者を乗務員養成センターで教育し、国土交通省の国家試験(動力者操縦者運転免許試験)を受験させています。

当社では運転士の職責の重大さを鑑みて、国土交通省の全試験に合格して動力車操縦者運転免許証の交付を受けた後も単独での乗務に向けた訓練を重ね、社内での最終





的な判定に合格して初め て一人で乗務できるよう にしています。

2015年度は新規運転士養成2名、新規車掌養成2名を行いました。

【動力車操縱者運転免許交付式-東北運輸局内】

(12) 設備関係社員の養成

備関係社員の知識・技術力向上を図るため、社内研修のほかに外部研修施設を活用 した研修を行っています。

2015年度は、東日本旅客鉄道株式会社「JR東日本総合研修センター」、東日本旅客 鉄道株式会社盛岡支社に委託し、施設・電気関係社員の述べ49名が受講しました。専 門的な技術教育研修により日常の保守管理業務等につなげています。

V.輸送の安全確保のための取組み(安全文化の構築)

5. 安全への取組み

(1) 鉄道テロへの対策

「鉄道テロ対応取扱マニュアル」に鉄道テロに対する危機 管理レベル別の警戒実施項目を定め、鉄道に対するテロの防 止対策とテロ発生時の取扱い方法等を明確にして対応してい ます。

2015 年度も東北運輸局通達等にもとづき、必要な危機管理レベルを決定して取組みを行いました。

テロ対策警戒実施中

【駅に掲出している鉄道テロ警戒ポスター】

(2) 輸送への影響の最小化

ぎんが指令では、「防災情報システム」の情報や日本気象協会からの気象情報等を 収集し、現業機関へ適時提供して、迅速な初動体制がとれるようにしています。

また、災害が予想される場合はあらかじめ対策本部を設置するなどして自然災害などに対応しています。

2014 年度に発生した「インシデント(速度規制の通告漏れによる速度超過)」の再発防止対策では、指令員間の確認会話、情報共有の徹底及び他社の運転規制情報(地震、降雨)を確認できるようシステムの改修などを行い、適切な運行管理に努めています。

※「防災情報システム」とは、地震、降雨、風、積雪、河川水位などの自然災害に対応するため、沿線に設置した計測機器から列車の運行を規制する情報等が配信され、輸送の安全を確保するシステムをいいます。

(3) アルコール検知器の使用

乗務員には事故防止にむけ厳正な資質・健康管理が求められます。運輸管理所では、運転士と車掌は出勤点呼時にアルコール検知器を使用して、酒気を帯びていないことを確認しています。

(4) 防災業務実施計画の制定

当社は、岩手県知事から防災に係る「指定地方公共機関」の指定を受けており、災害時には「緊急輸送」等を行って地域の期待と県に協力する必要があります。

防災に係る規程類は、既に制定していた「防災規程(管理規程)」と、岩手県地域 防災計画にもとづく大綱「防災業務計画」、具体的取り組みをまとめた「防災業務要 領」を定めておりましたが、近年の災害が巨大化の傾向にあることから、当社では、 災害時にすぐさまお客さま、社員及び家族等を救護し、復旧作業を迅速に行うために 重要な「安否確認、非常参集」等の内容を見直し、新たに「防災業務実施計画」を制 定し、災害時に備えています。

Ⅴ.輸送の安全確保のための取組み(安全文化の構築)

6. お客さまへのお願い

(1) 踏切・線路内立ち入り等の事故防止

踏切の無理な横断や、線路内無断立ち入りによる列車との事故は、多くの場合、生命 にかかわる重大な結果を招きます。

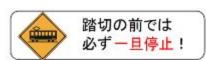
当社では、沿線行政機関や町内会組織および自動車輸送関係機関、学校、警察署等の皆さまのご指導とご協力をいただきながら、全国交通安全運動、交通事故防止県民運動等をとおして事故防止を呼びかけています。

(2) 踏切通行に係る主な注意事項

≪踏切の前では必ず「一旦停止」して安全確認!≫

踏切の前では必ず一旦停止して、前方の滞留状況などもよく確かめて、安全を確認してから通行してください。

踏切の向こう側が詰まっている時は、 たとえ警報機が鳴っていなくても進入しない でください。



≪警報器が鳴り始めたら、無理な横断はしない!≫

警報機が鳴り始めたら、踏切内は<mark>進入禁止</mark>です。

決して無理な横断はせず、踏切前で必ず止まってください。

≪制限表示の高さを超える車は絶対進入しない!≫

踏切には高さ制限(4.5m)があります。 制限を超えた車両等が通行すると感電や架線切断等、 大事故の危険があります。



クレーン車・ユニック車のアームのしまい忘れ等には特に注意が必要です。

踏切以外の線路の中を歩行したり、線路の近くで遊んだり、 また、踏切以外の場所で線路を横切ったりしない!

列車との衝突事故は、本人のみならず多くの方々を危険にさらします。 無理な横断は絶対におやめください!!



6. お客さまへのお願い

(3) 踏切でのトラブル対処法

踏切でのトラブル対処法

一踏切事故を防ぐためのお願い一



どうしよう!しゃ断機が下がって動けない!!



あわてず車を そのまま前進させましょう



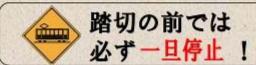
車をゆっくり前進させると しゃ断ポールは前方に跳ね上がります

もし踏切で車が動かなくなったら・・・





踏切で閉じ込めれた人や車を 見かけた場合は、ためらわず 非常ボタンを押してください



踏切や線路内で トラブルが起きたら

ぎんが指令 (携帯からもOK) 0120-674140

まで連絡してください





V.輸送の安全確保のための取組み(安全文化の構築)

6. お客さまへのお願い

(3) 踏切でのトラブル対処法



踏切の中に閉じ込められた人や自動車などを見つけたら・・・

踏切に設置してある「非常ボタン^注」をカバーの上から強く押してください。信号機が作動して列車に異常を知らせます。その後、ぎんが指令に連絡してください。

(注)非常ボタンは、いわて銀河鉄道線管内では全踏切の両側に設置されています。

踏切内で閉じ込められた人や車を見かけた場合は、 ためらわず非常ボタンを押してください。 また、非常ボタンを押したときは、直ちにフリーダ イヤルで「ぎんが指令」にご連絡ください。



連絡先は非常ボタンの下に掲示してあります。

【非常ボタン】

踏切や線路内で トラブルが起きたら

ぎんが指令 (携帯からもOK) 0120-674140

まで連絡してください



Ⅵ.お客さまとの連携

1. こども 110 番の駅

学校への登下校の際に子供が犯罪の被害にあう機会が多発していることから、鉄道事業者では全国的に「こども 110 番の駅」の取組みを実施しています。

当社では、社員配置駅に「こども 110 番の駅」のステッカーをはり、子供が駅に助けを求めてきた場合などに、子供の保護や 110 番通報ができるようにしています。 【こども 110 番の駅ステッカー】



2. 列車妨害防止

不審物や不審者、線路への支障物などを発見した場合は、直ちに「ぎんが指令」までご連絡ください。 [フリーダイヤル(携帯からも OK) 0120-674140]

列車の安全運行にご協力をお願いいたします。

3. ビニール等の架線への飛来防止

ビニール等が風で飛ばされて架線に絡むと、列車の 運行に大きな支障が生じます。

列車が運行できなくなるなど、お客さまに大きなご 迷惑がおよびます。

農業用ビニール等が風に飛ばされないよう、適切な 「保管・管理」をお願いいたします。



【ビニール等飛来イメージ】

4. 迷惑行為の防止

駅、車内での暴力行為、痴漢などの迷惑行為を見かけた場合は、駅係員や乗務員までお知らせください。

5. 沿線にお住まいの皆様へ

安全な列車運行のため、鉄道設備は定期的なメンテナンスが必要です。

工事を行う際は、極力ご迷惑をおかけしないように努力いたします。 沿線にお住いの皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

1. 表彰受賞

(1) 人命救助に感謝状

4月29日、いわて沼宮内駅構内にてホームから誤って転落した旅客を列車運転士と ともに、協力して救出なされた協力者2名へ、5月7日、事故を未然に防ぎ人命救助 をしていただいたことへの感謝状を贈呈させていただきました。

(2) 事業功労者、永年勤続優良従事者表彰

10月14日、メトロポリタン仙台にて第22回「鉄道の日」記念式典が開催され、当社 からは、盛岡駅長が東北運輸局長表彰を受賞しました。この表彰は、業務に30年以上 勤務された50才以上の方、または現業部門の業務に20年以上勤続された方で、他の模 範と認められる方に授与されるものです。今後も、社員一同、無事故を継続できるよ う安全確保に努めてまいります。

2. 青山南口開業と本社移転

(1) 本社移転

11月16日、青山駅の青山南口の開業とともに、本社が青山南口の2・3階へ移転し ました。移転したことで、異常時や災害時に素早く対応できるようになり、即応力強 化につながっております。

(2) | GRイメージキャラクター

11月20日、"もっと身近に IGR"を体現できる ような親しみやすいキャラクターを目指したIGR イメージキャラクターが決定しました。

キャラクタープロフィール

いわて銀河鉄道線の上に輝く星たちの中のふたり。 将来は運転士や車掌になることを夢見ています。





【ぎんがくん】

【きらりちゃん】

3. 安全報告書の公表

当社では、安全報告書の公表を自社ホームページのみで行 っていましたが、盛岡駅等の主要駅においても待合室のほ か、駅券売機付近に吊り下げるなどして、幅広い年代に公表 しております。



【盛岡駅待合室】

Ⅷ.安全報告書へのご意見

1. 安全報告書へのご意見

当社の安全に関わる取組みや本報告書へのご意見、ご感想につきましては、「IGR いわて銀河鉄道ホームページ」にて承っております。

IGRいわて銀河鉄道ホームページアドレス(http://www.igr.jp/)画面下段右側にある「お問い合わせ」からお進みいただき、「お問い合わせ、ご意見・ご要望の受付」フォームをご利用ください。

【表 紙】安全確保の取り組み



【編集】

IGRいわて銀河鉄道株式会社 安全対策室 〒020-0133 岩手県盛岡市青山二丁目2番8号 TEL:019-601-9980(代表) FAX:019-601-9997